

【7】 個人実践例

指示を聞いて素早く行動する子

～楽しみながら友達といっしょにからだを動かす子～

1. 対象児（S・N、高1男）のプロフィール

(1) 障害名

ダウン症候群

(2) 生育歴

昭和46年7月16日生

歩き始め6歳7か月

就学猶予2年

昭和56年本校小学部入学

(3) 本児の実態

①発達検査（津守式検査）

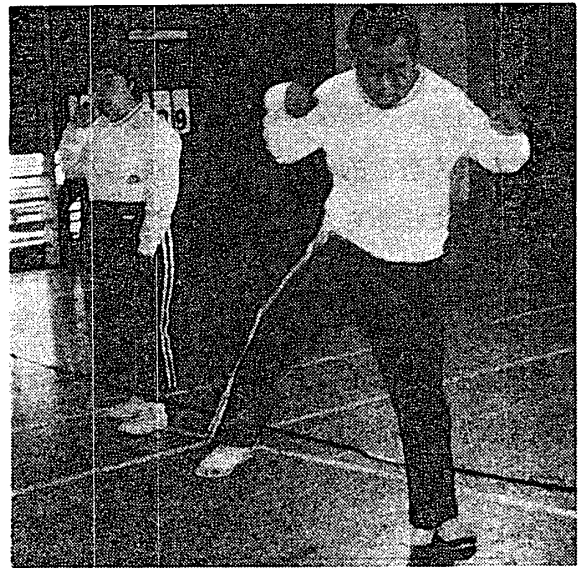
運動 — 1 : 6

探索 — 1 : 6

社会性 — 1 : 9

生活 — 4 : 6

言語 — 1 : 3



なわまたぎ運動のようす

②性格・行動上の特性

人なつこくだれにでも愛嬌を振りまく。ふざけたりして友達をかなぐったり、頭突きをすることがある。表出言語はほとんどないが、言語理解力はかなりあり、指示の理解はできるが、それが行動に結びつかないことが多い。サインでの要求はできる。眼球振動が見られる。

2. 各場面での実践例

(1) 保健体育〈Aグループ〉

①ねらい

ボールやロープを利用して音楽に合わせて友だちといっしょに楽しんでからだを動かし、少しでも多くの動きを経験させる。

②方針とてだて

○多様な動きを経験させる→一人でできる動きは限られるため、友達と組んでする運動を多く取り入れる。

ボールやロープ、足型マット等を使い動きを多様にする。

○機能強化を目指す——→下肢が弱いため、足に筋力をつける運動を取り入れ強化を図る。

○意欲的に取り組ませる——→ゲーム性を取り入れ楽しさを持たせる。

楽しい音楽で明るい雰囲気を作る。

○学習に見通しを持たせる→学習内容をパターン化させることにより見通しを持たせる。

③実践例

○なわとび運動（8時間計画）

学習内容	初回	変容
・なわまたぎ運動	片足を上げるときに補助者の手を持つ	3時間目は一人で30cmの高さのなわをまたぐ。
・くぐり運動	立ったままなわを持ち上げて通る	「馬になって」の声かけでかがむ。友達のやり方を真似て腹ばいになる
・連続またぎ運動	すぐ止めてしまい坐り込む	→なわを持つ役をして気分転換の後、再挑戦し、動きの流れには入れる。
・両足飛び越え	全くできず坐り込む	→補助者の手をひき、練習意欲を見せる。足型マットを使って練習するが両足同時に地面を蹴れない。補助者を振り払い一人でマットの上を歩く。

初回の学習では、グループからすぐに離れて坐り込む場面が多く見られたが、学習内容が理解されるのに伴って、参加意欲が見られるようになった。補助を受けてできた時には手をたたき動作でうれしさを表現し、1度成功すると補助者の手を振り払い一人でしようとした。

このことから、学習に見通しが持てることの重要性、成功感、成就感が次の可能性を引き出す要因になっていることもよく分

かった。しかし、下肢の筋力が弱いため、本人の意欲があっても体の動きが伴わないことが多かった。運動の発現に必要な筋力を増強することが今後の課題だと思われるが、筋力トレーニングとしてではなく、友達といっしょに学習する中で力をつけていくために、ゲーム性のある楽しい学習内容を取り入れて指導するのが適切であると考え。



足型マットの練習のようす

(2) 養護・訓練〈bグループ〉

①ねらい

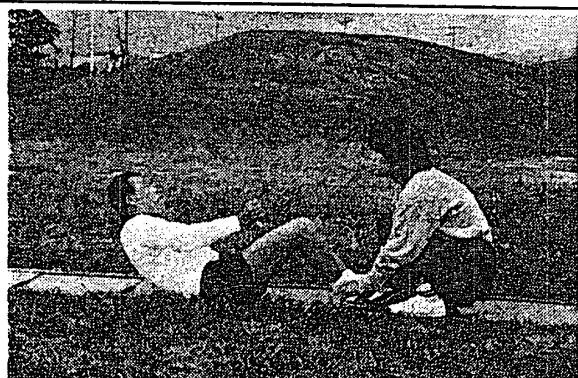
アスレチック施設等を利用し、平衡感覚の調整、すなわち身体の調整力、バランス、タイミング、リズム感を養う。

②方針と手だて

- 運動をパターン化させ覚えさせる→友達と同じことがしたい思いが強いことを利用し、友達の真似をすることによって、運動のやり方を理解させる。
- 運動に回数目標をつくる →目標回数達成時には拍手をし回数と動作を認識させる。
- 運動の関連性に気付かせる →腹筋運動の回数の増加と鉄棒にぶら下がる時間の増加について、そのつど説明をし、していることに対して目的意識を持たせる。

③実践例（4月と9月の実態）

運動内容	4月の実態	9月の実態
腹筋運動	・寝転ぶことを嫌がる。友達のを見て格好だけはする。右肘をついて1回できる。	・決まった場所で寝転んで膝を立て準備をする。ワン、ツー、スリーのかけ声で上体をおこすのが7回できる(腕は脇)。手を頭に置いた状態では、2回できる。
鉄棒のぶらさがり	・人ごとのように背を向けてしゃがみこむ。	・積極的に鉄棒にぶら下がる。3秒間地面から足が離れる。友達の逆上りを真似して、前方に足を蹴りあげようとする。
築山の登り下り	・補助者の手にさわって登り、補助者の肩を両手でさわりながら下りる。	・一人で登り下りをする。途中に何回か早歩きをする。腹筋運動が終わると、指示をされなくても登り下りをし、3往復すると次の運動場所に行く。



腹筋運動のようす

毎日繰り返し同じ運動をすることにより、すべきことが分かり、積極的に取り組めた背景には、やはり、回数や時間が増えたこと、いろいろな動きができるようになったこと等の喜びがあったためだと考える。今後もやらされてする訓練ではなく、楽しんで意欲的に運動に取り組めるようにしたい。また、変容のようすが本生徒自身にも自覚できるようにしたい。

(3) 職業〈紙工〉

①ねらい

- 商品として価値のある製品を作る技術を身につける。
- 自主的に作業に取り組む態度や習慣を養う。

②方針と手だて

- 不良品を作らない → ・なめて汚したり、破ったりしたものは大きく引きちぎってみせることにより、してはいけないことを視覚面から理解させる。
 - ・よそ見をして作業するとミスが出ることを防ぐために、「紙を見て、紙を見て」と常に声かけをする。
 - ・技術の向上に合わせてやりやすい材料から次第に難しい材料にしていく。
- 自主的な取り組み → ・作業場所、材料を固定化して指示を受けなくても作業に取りかかる環境を作る。
 - ・仕上げた枚数をシールで記録し、増えたことに対し、大きな賞賛の言葉かけをし、自信を持たせ作業に対するやる気を持たせる。

③実践例（5月の校内職業実習と9月の職業の時間の実態）

	校内職業実習	9月職業の時間
作業態度	<ul style="list-style-type: none">・紙を顔に近付けなめて汚しては、ポイと投げ捨てる。作業をする意識がなく、遊びの意識が強い。仕上げ枚数 0・すぐにいすから降りて床に坐り込む。	<ul style="list-style-type: none">・声かけを受けながらではあるが、手元を見ながら作業をする。仕上げるごとに「でひ」と報告する。仕上げ枚数 38・作業する間、いすに腰掛けて作業する。
作業意欲	<ul style="list-style-type: none">・友達にちょっかいを出し、注意されるのを喜んでいるだけで、作業意欲は見られない。	<ul style="list-style-type: none">・材料がなくなると、自分で取りに行き大きなからみを一人で運んでくる・材料を人に分ける等の世話をしたがる。

3. 考察および今後の課題

どの場面でも共通した指導の重点として、高等部1年生であることを強調した。「君は高校生」という言葉かけが、「高校生は頑張らなくては」という意識を育て、様々な学習に対してやる気を持たせる効果をもたらした。しかし、やる気もてるためには心身共に発達しなければならない。つまり、腹筋力がついてきたことにより職業の時間中にいすに座っておれるようになり、作業も続けられたわけである。今後の課題としては、体力（抵抗力、行動力）を増強すると同時に、自己表現方法を身につけさせ、意思の疎通がなされた上で、本生徒が学習に取り組めるようにしたい。

(文責 八木 啓子)